

2016 年度中国青年メディア関係者代表団第 1 陣 参加者の感想（抜粋）

【第 1 分団】

○東京、京都、大阪など異なる場所で各地特有の魅力を味わい、日本への理解を深めた。短い時間ではあったが日本側の行き届いたご手配により、政治、経済、科学技術、歴史、文化のすべてに対し認識を深め、知識を得た。

国家には性格と魅力があり、その地に生活する人々がそれを形作る。日本の皆さんの印象が深く刻まれた。まず、非常に真面目だ。訪問活動中はもちろん、あらゆる場面で秩序、時間、約束に対する真摯な態度には襟を正す思いだった。また、プロ意識の高さに驚いた。メディア関連機関のみならず、社会生活や交通関連のあらゆる訪問先で、皆さんは我々の訪問をととても重視し、丁寧で綿密な準備を行い、質問にも力を尽くして回答してくれた。中でも大阪市交通局緑木車両工場の現場作業員が忘れられない。この方は中国語で原稿を用意し、全ての漢字に中国語読みのルビをふり、最後まで一生懸命に説明してくださり、心から感動を覚えた。

また、専門分野でも多くの知識を得た。テレビ局、共同通信社の訪問、自由取材、明日香村でのホームステイ等いずれも忘れ難い経験となった。また、中日メディア懇談会では司会者が終了を告げるまで活発に意見交換を行い、中国の公共安全や警察に対するイメージに対してヒアリングを行うことができた。メディアに従事する者として、今後の仕事に貴重な機会となった。心から感謝する。

○今回の訪問で 3 つの印象を得た。

まず、日本は非常に清潔である。東京、大阪などの都市でも、明日香村のような村でも、大型ホテルでも小型スーパーでも、そしてトイレさえ、とにかく清潔で、非常に快適だった。

そして、日本人は礼儀正しく、決まりを守る。自由取材で出会った日本人は友好的で、優しく、言葉が通じなくても厭わずに一生懸命に伝えてくれた。時間、約束を守り、秩序ある日本の皆さんは、どこでも当然のごとく整然と列をなして並んでいた。

また日本人はストーリー性を込めた情報発信がうまいと思った。それにより互いの距離が縮まり、感情の交流が促進される。例えば日中友好会館会長が歓迎会で触れられた石家荘の話、明日香村で聞いた唐代に遡る両国交流の話、讀賣テレビで伺った上海メディアとの協力の話などは印象的だった。

帰国後は周囲の友人に日本で見聞したことを伝え、両国民の相互理解をさらに促進していきたい。

○まず、日本国内の交通機関の運行・管理の状況を同僚や友人知人に詳しく伝えたい。警視庁交通管制センター、新幹線、大阪市交通局緑木車両工場、京都鉄道博物館で見聞したこと、撮影した素材を皆に紹介し、話し合いたい。

また、日中友好会館主催の歓迎会や歓送報告会への出席、7 日間にわたる日本側の皆さんとの交流を通し、行程を着実に実施する態度を目にし、日本人の時間に対する概念、友好的なイメージが深く刻まれた。

神楽坂での自由取材、奈良県明日香村でのホームステイは良好な印象を残した。言葉の壁があっても互いが歩み寄ることで、大きな収穫が得られた。神楽坂で我々グループはケーキ店のスタッフ、和服をまわって踊りのお稽古に行く途中のお嬢さん、下駄や和傘など伝統工芸品の販売を手掛ける老舗の店主、自転車ショップ経営の 22 歳の青年など、異なる年齢層の皆さんと直に触れ合い、実際の生活や真の考え方などを理解するチャンスに恵まれた。特にホームステイにおける日本人の日常生活、食習慣などが深く印象に残った。

○環境について。日本の第一印象は清潔で、紙くずやタバコの吸い殻など全く見当たらず、どの車もピカピカ、タイヤには泥も付いておらず、新品のようだった。店舗の店先も清潔に保たれ、ほこりなど少しも積もっていなかった。

秩序について。店、街角、エレベーター、バスなどで人々は自然と列を成して並ぶことが習慣になっている。左側または右側通行を守っているのも、急いでいても混乱が生じない。

きめ細かさについて。トイレは下水にトイレットペーパーを流せる。公共の場では携帯をマナーモードに設定していて、呼出し音が鳴ることはほとんどない。食事や交流が終わると、必ず椅子を元に戻し、他人に迷惑をかけないように配慮していた。団体での食事では先に食べ終わっても席を立たず、他者への配慮を表していた。主催者側の仕事ぶりを拝見していても、挙げればきりが無い。

科学技術面について。鉄道博物館では100年以上昔の列車が今日もなお魅力的に展示され、子供たちがそれを体感し、原理を学んでいた。日本科学未来館ではロケットの部品などが間近に見られ、日本で多くの発明が生まれる理由を垣間見ることができた。

こうしたことを回りの人々に伝えていきたい。

○8日間の訪日で印象深かったことをいくつか挙げる。まず東京は北京より車両台数が200万台ほど多いのに渋滞がほとんど無いことだ。強力な交通管理システムを駆使し、都市の至る所に監視カメラを設置し、どこかで渋滞が起こると即座に信号の調整を図っていた。このため車両が多くても渋滞が少ない。次に日本のメディア関係者の仕事に対する熱心さだ。共同通信社、讀賣テレビ放送を訪問し、日本の記者は自身のデスクを持たず、担当する企業や関連組織と密接な連絡を保ちながら情報を直接入手していることを知った。こうした取材方法は取材対象との距離が近く、スクープを得やすいそうだ。社会ニュース担当の記者は半ば警察局に住み込み、毎日のように警察関係者に取材を行い、良好な関係を築くことでスクープを獲得するという、並外れた努力をしているそうだ。もう一つ印象深かったのは、規律を守る精神が日本人の心に染み着いていることだ。地下鉄、トイレ、改札、エレベーターなどの公共の場では必ず列を成し、騒いだりしない。子供のころから受けてきた父母や学校による教育と関係があると感じた。この数日、至る所で感じたことは、中国に足りないことばかりだと思った。帰国後、日本での所感を周囲の友人知人に伝え、必ず日本へ行ってみるように勧めようと思う。

【第2分団】

○少子高齢化のテーマに沿って劇団、農村、関係機関を訪問し、次のような印象を得た。まず、少子高齢化社会に直面し、日本は積極的にさまざまな試みをしていた。高齢者だけの劇団を組織し、芸術を通して自らの能力を発揮する場を与え、老いてなお活気ある生活の実現を掲げていた。また、(福)いずみ会などの組織を通じ、高齢者、障がい者、コミュニティーが共同参画で関心を寄せ合い、子供にはお年寄りの優しさを感じさせ、同時に高齢者には子供たちの成長する未来を思い描かせていた。こうした試みは多面的な人を育てる環境づくりに効果的であり、高齢化に直面する中国が学ぶべきだと感じた。さらには日本の食文化や自然環境のほか、歴史文化を深く理解できた。伝統文化の継承、医療・教育・衛生面においても日本は進んでおり、中国は学ぶべき点が多々あり、この方面において日本の経験を手本にしたいと思う。

帰国後は周囲の友人、同僚に感想を話し、見聞してきたことをメディアを通して伝えたい。同時に是非、多くの中国人が日本を訪れ、日本の歴史文化、風光明媚な自然のすばらしさを味わってくれればと思う。そして日中関係の友好の思いを継承し、未来に向かって共に協力し合い、友好を次世代につなげて欲しいと願う。

○来日前は、黒澤明や北野武などの映画や、東京ラブストーリーなどの作品から日本を理解していた。日本人は生真面目で礼儀正しく、勤勉だが、活力に欠け、堅苦しいイメージがあった。しかし、東京や秋田を訪問して、都会では生活リズムが早く、人々は一生懸命に仕事に取り組み、農村では人々は純朴で友好的、親切で温かいと感じた。日本はメディア、都市建設、環境保護、住民の生活保障など中国が学ぶべき点が多い。

日本は国土が狭く、資源に乏しく、高齢化問題が逼迫している。そのため税収政策、社会福祉などで調整を行い、女性の出産を奨励し、子育て、教育や医療に関わる不安の払拭に努めていた。秋田県は高齢化が最も深刻な地域で、身障者福祉センターを開設し、障がい者の社会参画を促していた。また、彼らの力を用い高齢者への生活支援を強化すると同時に、幼児との交流も活発化させ、物質的、精神的により豊かな生活を実現させる工夫をしていた。中国でも高齢化問題は日増しに突出しており、日本における高齢化問題の対策は大いに参考になった。

○東京以外の地方都市への訪問と交流は貴重で、秋田県で3日間の忘れ難い体験をした。全戸数40万軒の地域で、22万部数の新聞が発行されており、実に2人に1人が閲覧していることには驚いた。新聞社の主要な収入源は購読費だそうだ。日本人は子供から大人に至るまで読む習慣と学習意欲が備わっており、他の民族が学ぶべきだと実感した。帰国後は日本人の国民性、読書と学習により常に高みを目指す民族であることを伝えていきたい。

○今回の訪問を通して印象深かったことを挙げる。まず窮屈で融通が利かないと思っていた日本人だが、実際には真面目で活発で温かかった。またテレビ局、新聞社、交通局、政府機関、公共の場など至る所には、その場所の説明文とともに、たくさんの可愛いイラストが添えられ、ちょっとした工夫で生活に彩りを加え、楽しくリラックスして過ごしているのが分かった。また、人々は優しく、細やかで、丁寧だった。空港では子供たちをプレイエリアで自由に遊ばせる傍らで、母親たちが安心して見守っていた。レストラン、トイレ、店の入口などにはベビーチェアやカート、おむつ交換場所、雨傘用ビニール袋などが設けられ、数々の配慮には人に優しい社会、文明の高さと発展が体现されていた。また、至る所でプロ意識を感じ、効率の高さが見て取れた。役割や作業を明確に分担することで、各自が成すべきこと、成さざるべきことを正しく認識していた。道徳や責任により社会の規則に縛りを与えるのではなく、自分の本来の仕事に徹することで、個人が目標達成に向けて努力し、その結果スムーズな社会システムが構築されていた。最後に、教育産業が重視され、人々は一様に学習の習慣を持っていた。農民は演芸を楽しみ、子供たちは芸術を愛し、多くの人が自由に読書をしていた。学習は民族を高める基礎になる。日本の書店は本の種類が豊富で、内容も深く、子供から大人、主婦や青少年まで皆が楽しめる。また、交通機関にも自由に手に取れる読み物が置かれ、気楽に楽しくページをめくることができ、心を豊かにすることができる。

○中国青年メディア関係者代表団として7日間、日本を訪問した。豊富な日程で、内容は充実し、政府関係者との討論から民間交流まで用意されていた。主に日本の高齢化社会や福祉を切り口に、日本の社会を身近で理解し、短期間で大きな衝撃を受けた。

日本は高齢化が急速に進んでいるが、認知症を認めたくない高齢者が多いため、「一体化介護」を始動させていた。これは社会や医療保険の負担を減らし、高齢者の生活の質を高め、深刻な疾病の罹患率を抑えるのに貢献していた。

中日両国には歴史問題に起因し認識の違いが存在するが、メディアは世論を先導する上で非常に重要な社会的責任を負っている。我々は政治的眼力を養い、高度な戦略と国際的視野を身に着け、感情移入を慎

み、国家の利益を優先させることが肝要だ。故意に記事を書き立てたり、不適切な言論を發表したりすることは避け、国家の利益に資する行いをし、もめごとを避けるよう努める必要がある。

【第3分団】

○今回の活動に参加できたことを心から光栄に感じ、主催者側の心のこもったご配慮に心から感謝する。JENESYS2.0の豊富な活動のおかげで、日本の同業種の優秀な皆さんと深く交流するチャンスに恵まれ、また一般の方々との草の根交流もできた。自由取材、ホームステイなどで日本文化に触れ、多くを学んだ。日本のメディア関係者との交流で、双方には少なからぬ誤解が存在していることが分かり、両国がより全面的な交流や協力を進める上で不利な要因だと感じた。そのため我々の責任や任務は非常に重い。企業訪問や自由取材から、両国の経済貿易には密接な関係があり、中国の安定した経済成長が日本経済の発展に重要な促進効果をもたらし、同時に日本経済の安定が中国経済の転換やレベルアップを促すことも分かった。ホームステイ活動では日本の一般の人々と交流でき、日本の社会や文化を深く理解し、彼らの優しさや善良さに感動し、謙虚に粘り強く努力を続ける姿に敬服した。全日程を通して、日本の魅力を全面的に知り、今後の両国関係の報道を行う際の共通認識を得ることができ、さらに全面的、客観的、踏み込んだ報道ができるよう努力していきたいと思っている。ありがとう！

○日本人の主体性の高さが印象的だった。それは清潔、静寂、勤勉という形に表れていた。

来日前、日本の町並みは清潔だと聞いていたが、実際に自分の目で見て驚いた。東京の路地裏、南あわじ市の小道、どこも清潔だった。そして、ごみ箱が無いのに、ごみが散乱していなかった。

主要道路でもクラクションの音はほとんど聞かれず、電車の中でも静かだった。また、神戸新聞社の訪問で勤勉さが印象に残った。1995年の阪神・淡路大地震の際、夢の中から地震に揺さぶり起こされた記者たちは、即座に街に飛び出し、その瞬間をカメラで記録したそうだ。主体性の高さが記者のDNAにまで染み付いていることを深く感じた。

ホームステイ体験も忘れられない。私たちはTさんのお宅にお世話になり、ご家族は歓迎の垂れ幕、私の大好きなお寿司、人形浄瑠璃鑑賞や花火のプログラムで歓待してくれた。言葉の壁は翻訳ソフトで補い、家族の皆さんの善良さ、温かさ、素朴さを感じ取った。Tさんは別れ際、土地の名物やおやつを用意し、道中お腹が空かないように、喉が渇かないようにと気遣ってくれ、とても感動した。

帰国後はこれらの感想を周囲の人々と共有し、皆にも日本の更なる魅力を見つけてほしい。

○訪日するまで、高層ビルが林立している都市を思い描いていたが、実際は違った。また、日本人は礼儀正しく、友好的で、特に自律力に富んでいた。

フジテレビや神戸新聞の訪問は私たちの専門性と合致し、多くの収穫を得た。フジテレビのバラエティーやドラマは有名で、日本国内でも特に人気がある。ニュース編集局やスタジオを見学し視野が広がり、人気イベントの一つである「夢大陸」の現場も見た。

また、神戸大震災の中でも新聞発行を続けた経験豊富な神戸新聞社の皆さんには、敬意を表する。

○初めて訪問した日本では、至る所が清潔なのに驚き、細やかさと温かさ之感銘を受けた。トイレ、ホテル、レストラン、公共の喫煙所など感動は尽きない。瞬く間に人と人の間の距離が近づき、好感を抱いた。

日本の高齢化問題は深刻で、中国では若者が従事するような仕事に高齢者が就いており、やるせない気持ちだった。こうした状況は中国でも近いうちに出現するはずで、日本の経験を吸収し、如何に最適な状況で高齢化問題を迎えるべきか関心を寄せるきっかけになった。

日本は伝統文化を有効的に保護しており学ぶべきだ。特に南あわじ市で小中学生が組織する人形浄瑠璃活動に参加し、12歳にも満たない子供たちの素晴らしい演技を見て、拍手喝采を送った。伝統文化の保護はスローガンを声高に叫ぶだけでなく、メディアも先導し、常に唱えていかねばならない。

友好的な日本国民と自ら触れ合い、中国で言われている偏見は打ち消された。平和を維持するのは難しいが、如何なる国民もむやみに悪意を扇動したり、恨みや戦意をおだてたりしない。一般国民同士の交流により誤解を解き、それが政府や民間組織の活動に影響を与えるべきだと思った。

短期間の日本訪問は印象深く、日本に対する好感が高まった。JENESYS2.0プロジェクト、随員スタッフの皆さん、ホームステイ先のご一家に心から感謝するとともに、皆さんのご健勝を祈念する。

○異なる国への訪問を通して、文化交流の重要性や必要性を深く認識した。訪日期间中、日本の一般の人々、メディア、社会、政府関係者らと顔の見える交流を行い、両国の違いや共通点に関して比較ができた。日本は経済、科学技術、環境保護や文化継承など学ぶべき点が多かった。また交通、環境汚染対策、高齢化問題なども手本になることばかりだった。ホームステイは短時間だったが、一般旅行では味わえない貴重な体験をさせて頂き、日本人を深く理解する絶好の機会となった。

帰国後、見聞きしたことを、ありのままの形で同僚、友人、家族に伝え、彼らに今ある偏見を正し、是非一度日本を訪れ、自分で日本を体験してもらおうよう勧めたい。中日両国の人々の末永い友好を願い、共に努力していきたい。